

文教常任委員会委員会調査報告書

令和5年8月30日（水）に、県立近代美術館葉山館外2か所において、次の調査事件について調査したところ、その概要は別紙のとおりでした。

調査事件

- 1 生涯学習及び文化財に関する事項について
- 2 県立学校等に関する事項について

神奈川県議会議長 加藤元弥様

文教常任委員会委員長 望月聖子

1 調査の概要

- (1) 調査箇所 県立近代美術館葉山館、県立神奈川工業高等学校及び県立神奈川総合高等学校
- (2) 出席委員 望月聖子委員長、川崎修平副委員長、
小林武史、あらい絹世、いそもと桂太郎、杉山信雄、斉藤たかみ、
岸部都、野内みつえ、鈴木ひでし、青木マキの各委員
- (3) 随行者 矢澤主任主事（議会局議事課）、工藤副主幹（教育局総務室）
- (4) 調査日 令和5年8月30日(水)
- (5) 行程 県庁 → 県立近代美術館葉山館 → 県立神奈川工業高等学校 →
県立神奈川総合高等学校 → 県庁

2 県立近代美術館葉山館

(1) 調査目的

県立近代美術館葉山館は、今年で開館20周年を迎え、葉山館20周年記念展などを企画している。また、当時は珍しいPFI手法の美術館として開館し、PFI事業者が建物の維持管理やレストラン等の付帯施設の運営を行っている。

そこで、20周年を迎える美術館の展覧会の予定や、PFI事業を続ける中での課題等を聴取することにより、今後の生涯学習及び文化財に関する事項についての委員会審査の参考に資するものとする。

(2) 当局出席者

落合嘉朗教育局長、市川秀樹教育局総務室長、吉田美和子生涯学習部長、
信太雄一郎生涯学習課長、水沢勉近代美術館長、高德浩二同副館長兼管理課長、
長門佐季同企画課長、靱山昌夫同普及課長

(3) 委員長挨拶

(4) 教育局長挨拶

(5) 概要説明

以下の内容等について、説明があった。

ア 沿革について

イ 施設概要について

ウ 令和5年度予算について

(ア)近代美術館費について

(イ)主な事業について

エ 事業関係について

(ア)入館者の推移について

(イ)令和5年度展覧会について

(ウ)教育普及事業について

(6) 質疑応答

質 疑 20周年を迎えたPFI事業について、約4億円近い予算があるが、PFI事業についての評価、課題についてお伺いしたい。また、PFI事業者の勤務態度等の把握方法はどのようにしているのか。

応 答 PFI事業のメリットは、施設のメンテナンスを含めて行っていただけなので、維持管理の面で特に大きなメリットがある。また、レストラン等を独立採算で実施しているため、スタッフは勤勉に働いていると考えている。サービス等も充実が図られたので盛況である。勤務状況の把握方法については、定例的な会議や連絡協議会等での報告をモニタリングして確実にチェックを行っている。

課題については、深刻なものはないと考えている。

質 疑 美術作品整備費が3,630千円となっているが、予算額としてはどう考えているか。

応 答 作品整備費の中には、保管費等も入っている。戦後の時代に書いた作品などもあるので、そういった作品は温湿度管理も含め保管も難しい。また、写真、彫刻等種類も多い。残った額で作品等を購入するため、バランスよく作品をそろえるのは、現状の予算では非常に厳しいと言わざるを得ない。

質 疑 社会教育施設の共通の課題として、今後、耐震化や老朽化対策、施設の再整備などが求められてくるといったことがある。

厳しい財政状況の中、本会議において教育長からも、クラウドファンディングは有効な手段と認識しているとの答弁も頂いた。そこで、館長の思いとしてクラウドファンディングは有効な手法の一つだと考えているのかお伺いしたい。

応 答 美術館運営は、現在ぎりぎりの状態で、何とかコレクション展を運営している状況である。派手な展覧会をするよりも、保管費等も含めた基本的な部分を支えていただくといったクラウドファンディングは、選択肢の一つとして考えている。

(7) 施設の視察



(8) 調査結果

- 県立近代美術館は、近代美術に関する資料の収集、保管及び展示並びにこれに関する調査研究、情報提供等を行い、県民の近代美術に対する知識及び教養の向上を図ることを目的として設置されているとのことであった。
- 他の公共美術館に先駆けて「近代」と名を冠し、これまで750回を超える展覧会を実施してきており、今年度、葉山館は企画展4回、コレクション展3回、鎌倉別館では、企画展3回、コレクション展1回を開催するとのことであった。
- 幅広い年齢層の方々に美術鑑賞を身近なものとして、美術がもたらす豊かさを日常の生活に結びつけてもらうことを目標に、教育普及事業を近代美術館の内外で実施しており、主な事業としては、展覧会関連講演会等、ギャラリー・トーク、イベント・ワークショップ、地域連携、学校連携、インクルーシブ事業「むすんでひらいてプロジェクト」などの事業を行っているとのことであった。
- 葉山館は、PFI事業者により建設・所有され、維持管理業務等は鎌倉別館も含め同事業者により行われているという特徴があり、PFI事業については、次のとおりとのことであった。
 - ・ 葉山館の建設と建築物修繕、葉山館と鎌倉別館の建築設備保守管理、清掃、警備、受付・監視などの業務がPFI事業として遂行されている。
 - ・ 葉山館のレストラン、ミュージアムショップ、駐車場など付帯施設の運営は、PFI事業者が独立採算で運営しており、民間の経営ノウハウをフルに活用し、美術館全体の魅力を高めることにつながっている。一方、展覧会事業、コレクション形成、調査・研究、教育普及事業など美術館の基幹をなす事業は県が行っている。
 - ・ PFI方式を導入することによって、建築整備に関わる一時的な支出を抑

えて、県の支払額の平準化が図られている。このため、保守管理を一括で長期継続的に実施できることから、施設の維持管理面での安定化が図られるというメリットがある。

- ・ P F I 事業導入後、課題について、深刻なものはないとのことであった。
- これら県立近代美術館葉山館について調査したことにより、当常任委員会で生涯学習及び文化財に関する事項についての審査をする上で、参考に資するものとなった。

3 県立神奈川工業高等学校

(1) 調査目的

県立神奈川工業高等学校は、県内初の工業高校として、多くの工業人を育成しており、現在は学校教育目標を「Society5.0 エンジニア・Society5.0 デザイナー」の育成とし、教育活動を行っている。その中で、課題解決型人材の育成を目指す神工STEAM教育や、次世代IT人材の育成を目指すかながわP-T E C H等特徴的な取組も行っている。

こうした全国でも特徴的な取組を進める同校を調査することにより、県立学校における専門教育に関する事項について、今後の委員会審査の参考に資するものとする。

(2) 当局出席者

落合嘉朗教育局長、濱田啓太郎教育参事監、市川秀樹教育局総務室長、増田年克指導部長、渡貫由季子高校教育課長、片受健一神奈川工業高等学校長、梶本好弘同副校長

(3) 委員長挨拶

(4) 神奈川工業高等学校長挨拶

(5) 施設の視察



(6) 概要説明

以下の内容等について、説明があった。

- ア 神奈川県立工業高等学校の概要について
- イ 学校運営（全日制）について
- ウ 各科の内容について

エ 神奈川工業高等学校のSTEAM教育について

(7) 主な質疑応答

質 疑 かながわP-T E C Hの取組について、令和3年4月から始めたとのことだが、神奈川工業高校の卒業生が既に2回、産業技術短期大学校に入学してスタートしたとのことでのよいのか。

応 答 令和3年4月の1年生から開始したので、今年度の卒業生が初めての短期大学校への入学となる。よって、産業技術短期大学校と連携した5年間の教育が完了した生徒は、まだいない。

質 疑 P-T E C Hをすごく興味深く聞かせていただいた。2年近く取り組んできて、今後の方針や課題等について、意見をお伺いしたい。また、現地視察している中で、「レバレ」、「マネビ」といったものが黒板に記載されていた。改めて用語の意味等をお伺いしたい。

応 答 まず、P-T E C Hについては、企業の方のオンラインでの参加にはなるが、どういった仕事をしているのか語っていただくので、アンケートにおいても生徒たちの反応がとてもよく、教員の研修にもなっている。今年の新入生に聞いてもP-T E C Hの認知度は非常に高い。よって、今後も継続していければと考えている。

「レバレ」については、課題研究に対する姿勢のことで、ある課題があれば、まず、ばらばらにすることから始め、過去の研究を調べ、新しい展開を考えるとといったもので、過去の先進研究を調べ、真似するということが「マネビ」につながるといったことで、こうした用語を使用している。

質 疑 専門高校は技術革新が著しい中、県が始めたコンソーシアムがこういった形になって、実際に勉強の中で生かされているので、中身についてもう少しお伺いしたい。今、電気科と建設科で行っているとのことだが、機械科での状況はどうか。

応 答 機械科では、お茶の水女子大学と連携し、ロボット技術の育成に取り組もうとしている。神奈川工業高校に入っているシステムとお茶の水女子大学に入っているシステムが同じもので、同じくSTEAM教育にも取り組んでいるので、様々な連携ができるのではないかと模索している。

(8) 調査結果

- 県立神奈川工業高等学校は、全日制8クラス、942名の生徒が在籍しており、次のとおり学校教育計画を掲げているとのことであった。
 - ・ 工業に関する専門教科・科目を中心に、専門性の向上を図る教育に重点を置き

- て、実践的・体験的学習を重視して、産業界等との連携をより一層深めるとともに、共通教科・科目の適切な設置に基づいて編成を行っている。
- ・ 来たる国際社会・超スマート社会で活躍できる「Society5.0 エンジニア・Society5.0 デザイナー」の育成に向けて、工業教育に基づいた神工STEAM教育を実施している。
 - ・ 理数基礎力、IoT、ロボット、AI及びビッグデータなどの先端技術活用力、工業（工学）に関する知識と技能の活用力、グローバルコミュニケーション能力の四つの力を応用した創造的な問題解決力を身につけさせることを、学校教育目標として取り組んでいる。
- 生徒の進路状況は、進学が4割、就職が6割となっており、次のとおりとのことであった。
- ・ 進学では、工学院大学、芝浦工業大学、東京電機大学、東京都市大学の東京理工系4大学や理工系学部を有する各大学、デザイン科は特徴があるので、理工学部のデザイン科や美術系大学に進学している。
 - ・ 就職は、毎年2,000社以上の求人がある、従業員1,000名以上の大企業に技能職、施工管理や設計などの技術職として就職しており、大学卒に引けを取らない実績を上げている。
- STEAM教育では、課題解決型人材の育成を目指す手段の一つとして、神工STEAM教育を掲げ、課題研究の授業を課題解決型人材の育成を目指す本校教育活動の最終到達地点としているとのことであった。課題研究の授業は、2年生から3年生の2年間を通して行われ、問題発見、課題設定、課題解決のプロセスを学び、実社会において、問題発見、解決する資質・能力を育み、実践していくことができるようにするとのことであった。
- 社会に開かれた教育課程の実現として、企業や上級学校とのコンソーシアムの構築にも、次のとおり取り組んでいるとのことであった。
- ・ 電気科では、かながわP-Techに2年前から取り組んでおり、日本IBMとの連携協定の下、本校、県立産業技術短期大学、企業としては、IBMのほかにソフトバンク、富士通総研、横浜銀行と新しく結んで将来のIT人材育成に取り組んでいる。
 - ・ 建設科については、今年度から次世代建築リーダー育成コンソーシアムを立ち上げ、本校と清水建設、東京テクニカルカレッジの3者で、連携協定を締結し、日本国内で供給が不足している建築リーダー、いわゆる施工管理技術者の育成を目指して取組をはじめたところである。
 - ・ 連携協定までは結んでいないが、他科でも企業、大学、短期大学、専門学校と個別に連携をして、専門教育に力を入れた取組を行っている。
- これら県立神奈川工業高等学校について調査したことにより、当常任委員会での

県立学校における専門教育に関する事項について、今後の審査をする上で、参考に資するものとなった。

4 県立神奈川総合高等学校

(1) 調査目的

県立神奈川総合高等学校の普通科では、単位制の利点を生かしたカリキュラム・マネジメントに学校全体で取り組み、半期単位認定制（セメスター制）の導入やグローバル教育推進校にも指定されるなど、様々な取組を行っている。

また、令和3年度に専門学科として、舞台芸術科を開設し、舞台芸術を通じて、豊かなコミュニケーション能力や表現力を伸ばしていく取組を行っている。

こうした新学科設立等の取組を調査することにより、魅力と特色ある県立高校づくりに関する事項について、今後の委員会審査の参考に資するものとする。

(2) 当局出席者

落合嘉朗教育局長、濱田啓太郎教育参事監、市川秀樹教育局総務室長、増田年克指導部長、渡貫由季子高校教育課長、八田直昭神奈川総合高等学校長、山田尚子同副校長

(3) 委員長挨拶

(4) 神奈川総合高等学校長挨拶

(5) 概要説明

以下の内容等について、説明があった。

ア 沿革等について

イ 学校教育計画について

ウ グランドデザインについて

(6) 質疑応答

質 疑 MY時間割の取組が面白いと感じた。1年生から3年生まで90分の同じ授業を受けるとのことだが、特に1年生は、90分の授業に戸惑ったり、集中できなかつたりといったことがあるのかどうか。また、一人一人時間割が違うということで、空き時間などはどのように過ごしているのかお伺いしたい。

応 答 90分の授業については、履修登録などをする際、そういったことを説明し、だんだんと慣れてくるといった状況である。単位制の高校になるので、当然空き時間が発生する。自習室もあるが、それとは別に、校内にフリースペースがあり、保護者の方に設置していただいた机やベンチなどが置いてあるので、空き時間でも学校で勉強や休憩などで

過ごしていたりする。

質 疑 舞台芸術学科を開設したとのことだが、講師などはどうしているのか。また、県内には、県民ホールやK A A T（神奈川芸術劇場）の施設があるが、そういったところとの人材交流はあるか。

応 答 専任の講師は1名で、そのほかの講師は非常勤講師を雇っている。具体的には、演劇やダンス、クラシックバレエをやっている方や舞台技術を担当している方など様々な方面の講師を雇って授業を行っている。

特に、神奈川芸術劇場の館長に区切り区切りの発表の際に、助言を頂いたりなどしている。

質 疑 答えにくいことで恐縮だが、進路を見ると進学準備の方がいる。舞台芸術科の方は、専門的な学習をしているということで、進学のための勉強以外をしなければならないので、その両立についてはどうなっているのか。また、伝統芸能について学ぶ方もいるということで、そうした分野は、かなり門戸が狭いと思われるが、どういった進路になっているのか。

そして、進学準備として、受験勉強をしている方も多いと思うが、具体的な状況をお伺いしたい。

応 答 舞台芸術科にあっては、まだ卒業生を出していないので、希望の段階だが、9割が4年生大学への進学を希望している。それ以外は、ダンスや演劇に進みたい、もしくは大学生活の中で何らかの形で舞台芸術等に携わりたいという生徒もいる。

質問のあった伝統芸能については、実際に伝統芸能の進路を選ぶ方は、ほぼいない。伝統芸能をなぜやっているかという一般的な演劇が自由に何もないところから行うのに対し、伝統芸能は型がある。そういった型にはまった表現を学ぶことができるというところに意義を感じている。それが、舞台芸術を学ぶ上での広い視野の獲得につながると考えているためである。

進学準備のところでは、芸術分野の進学先を希望している生徒が多いが、そうした芸術分野はなかなか1回で自分の目指しているところに入ることが厳しい。その場合でも、妥協せずそこに行きたいという生徒もいるので、進路状況表では、毎年一定の割合で進学準備が出してしまうと考えている。

質 疑 舞台芸術科の説明で、地域貢献ということがあったが、具体的にどのようなことを行っているのか。

応 答 授業のほかに、地域の方をお招きし、土日に発表を行ったりしてい

る。幅広い年齢層の方に来ていただいているので、そういった面で地域貢献できているのではないかと考えている。

(7) 施設の視察



(8) 調査結果

- 県立神奈川総合高等学校は、単位制による全日制の課程で学科は普通科と舞台芸術科を有しており、学級規模は21学級で、前期、後期の2学期制をとっているとのことであった。
- 平成7年4月に神奈川の県立高校として、初の単位制による全日制普通科高校として開校し、個性の伸長と国際社会の中でともに生き、ともに育つ、高い人格とこころ豊かな感性を備えた人間を育成することを目標に個性化コースと国際文化コースを設置したとのことであった。
- 令和3年4月に専門学科舞台芸術科を新たに設置し、単位制による全日制の課程普通科及び舞台芸術科を併置する高校として、豊かな人間性や社会性の寛容、コミュニケーション能力の育成も目指しているとのことであった。
- 県立神奈川総合高等学校の大きな特徴として自分で決める時間割のMY時間割があり、令和6年度入学生だと、開校予定講座の約150の科目の中から、自分の夢、目標、進路、興味・関心などにより、必要な科目を選んで自分だけの時間割をつくっているとのことであった。
- 授業時間は90分授業を展開しており、落ち着いた雰囲気の中で深い学びにじっくり取り組んでいるとのことであった。
- グローバル教育研究推進校に指定されており、実践的なコミュニケーション能力、人間関係形成能力、課題発見能力を身につけ、様々な背景をもつ人々とともに主体的、協働的に課題解決に取り組もうとする人材の育成を研究主題と

しているとのことで、その舞台として、10月にはグローバルキャンプ、12月にはワールドカフェといった行事により、他校の生徒とともに、国際的な課題について、英語でディスカッションや発表を行う活動を通して課題解決能力、コミュニケーション能力を育成しているとのことであった。

- 海外パートナー校との交流を行っており、アメリカ、フランス、中国、スペイン、イギリス、韓国、ドイツの7か国の高校と交流があり、今年度はフランス、イギリスの生徒が本校に訪れ、本校からは12月に韓国、3月にアメリカとスペインの海外研修を予定しているとのことであった。
- 舞台芸術科においては、問題解決能力、コミュニケーション能力、表現力に富んだ人材を育成することを目的としており、舞台の専門家を育成することを目的としているのではなく、舞台芸術分野に進む場合も、ほかの進路に進む場合にも大切となる人間性や創造性豊かな人材を育成することを目指しているとのことであった。
- これら県立神奈川総合高等学校について調査したことにより、当常任委員会で魅力と特色ある高校づくりに関する事項について、今後の審査をする上で、参考に資するものとなった。